居住系施設（サービス付き高齢者向け住宅および住宅型有料老人ホーム）の

　　実態調査項目および報告書（記載例）

|  |
| --- |
| 都道府県名：　 〇〇　都道府県報告者と事例との関係：　■担当ケアマネ　□居宅支援事業所管理者　□その他（　　　　　　　　　　） |
|  事例の居住系施設：　■サービス付き高齢者向け住宅　□住宅型有料老人ホーム居宅介護支援事業所：　□併設（□同一建物内・□同一法人・別所在） ■外部事業所（当該居住系施設とは利害関係にない） |
|  施設の法人及び母体事業：　株式会社、主たる事業は不動産施設の開始年：　平成　26　年 サ高住の併設サービス：　■訪問介護 ■通所介護　□福祉用具貸与 □定期巡回型サービス　　□短期入所　□（看護）小規模多機能　□居宅介護支援事業所□その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）サ高住内での看取り体制の有無： ■あり（具体的な内容：常時看護師在中、提携医の24時間訪問対応）□なし 実際の看取り対応の有無　■あり（　２件　）　□なし　□不明　　　　　　　　　　　　　　　と聞いています。 |
|  居住系施設の契約条件□入居要件に居宅介護支援事業所の指定がある。□入居要件に同一法人のサービスの利用がある。□入居要件に同一法人に限らずサービスの指定がある。（具体的な内容：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）□同一法人サービスの利用による優遇措置がある。（具体的な内容：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）□入居要件はない。　 ■その他（なるべく併設サービスを利用してほしい旨、口頭で言われている。） |
|  事例の概要対象者属性：□男・■女、年齢（　80　才代）、要介護（　3　）現 疾 患：脳血管疾患入居年数：（　1　年　3　か月）担当介護支援専門員との関係：　■入居前からの担当□入居してからの担当現行プランのサービス種別・頻度（併設・外部）、および計画総単位数（記述でお願いします）　訪問介護（週7回、一日朝夕2回・併設）、通所介護（週3回・併設）　福祉用具貸与（特殊寝台・付属品、外部）合計26,000単位支援上の課題や特徴（うまくいかない点・自立支援が適切に行われた点など、記述でお願いします）　現在、身体状況が改善されつつあり、要介護認定更新中のこともあって、プランを見直している。サ高住側は現行のサービスを継続してほしい様子だが、自立支援の観点からサービスの削減を検討中。本人・家族との協議においては同意を得られている。サ高住管理者とも交渉し、次期プランでは訪問介護の支援を毎日2回の身体介護から週3回の生活援助に変更予定。入居当初はサ高住のお世話になる観点から、支援も手厚くしていたが、サ高住職員との関係性を作り上げてきたため、交渉もしやすくなった。それによって、適切な支援が可能となった。引き続き関係性を高められるよう、モニタリング時の職員との意見交換も続けたい。 |